

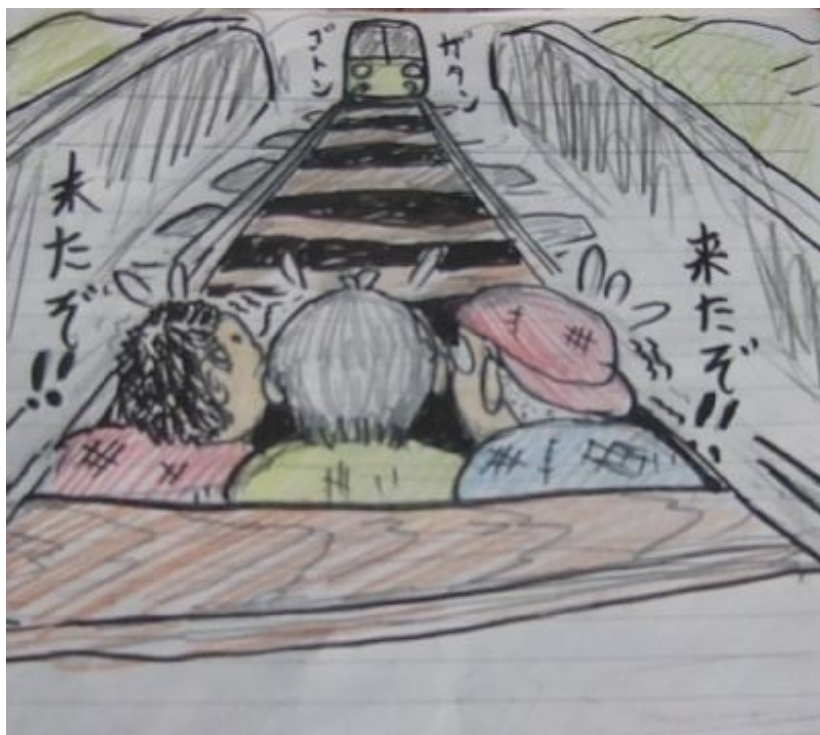
A photograph of a man in a white martial arts gi with a black belt, standing in a gymnasium. He is looking to his left. The gi has a black belt and a small black patch on the chest. The background shows a gymnasium with other people and a red ball hanging from the ceiling.

男、若狭弘幸の物語

マンガ編



家は、すごい貧乏でねえ。
いつも、きったない服きてて、
そうして近所の友だちと遊んでたんだよねえ。



いたずらばかりしててねえ。



陸橋の線路の真下で、
電車が目の前に迫ってきてて。

ぎりぎりまで首を引っ込めない、という遊び。

友だちに度胸とか、勇気を示すという。
バカな遊びですよ。

一歩間違ったら死んでますから。



俺と友だちは飛び越せた川。

でも友だちの弟は、
まだちっちゃかったから
飛び越せないでね。



それでも、がんばって飛んだら、
やっぱり川に。

この後、こいつ、
きれいなおねえさんたちに
やさしく抱かれて介抱されちゃうのよ。

心配してソンしたよ、ほんと。





おれのウチはトタン屋根で、
すごい貧乏で。

親父は愛人つくって家に帰らないし。

でも暴力親父なんか家にいないほうがよかった。

かあちゃんと、ねえちゃんと、
貧乏だけど幸せだったんだよね。

夏は、ねえちゃんが
プールにつれてってくれたり。





自転車にのって、遠くまで遊びにいたり。



冬は二人してコタツのなかで、
ふたりでテレビを見てた。

おれは楽しみにしてた
「あしたのジョー」が放送されたとき、
居眠りしちゃって。

どんな展開だったのか、
ねえちゃんに八つ当たり。



かあちゃんは毎日、朝早くから仕事へ。

でも、近所には仲のいい友だちがいて、
ねえちゃんとも仲がよくて、
貧乏でもそれはよかったんだけど。

でも学校では毎日、
ひどいイジメにあってて。

学校いくの、いやだったなあ。



ボロ着てるし、
くさいからって、
それにバカだったし。

だからクラスみんなに、
イジメられてた。

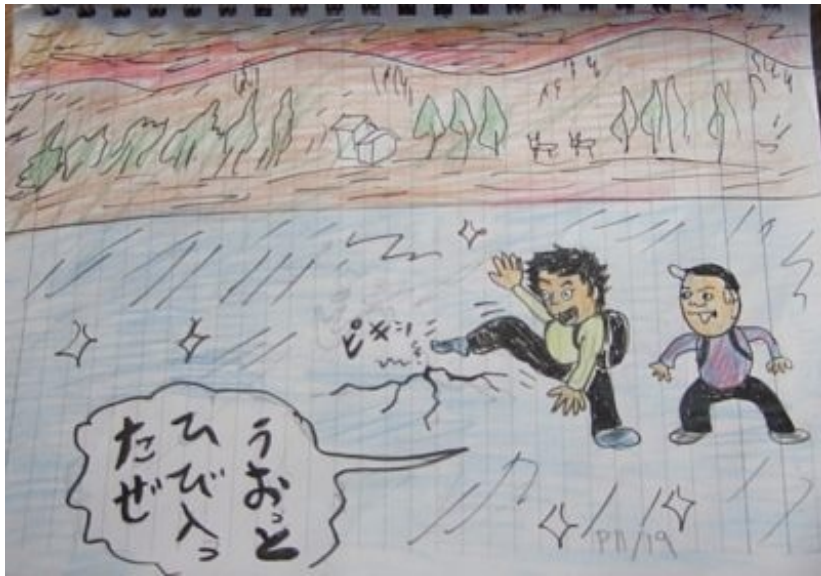
毎日、毎日....



ただ一人、
長峰くんという友だちがいて、
長峰くんと一緒だと
みんな俺に手を出さなかったから。

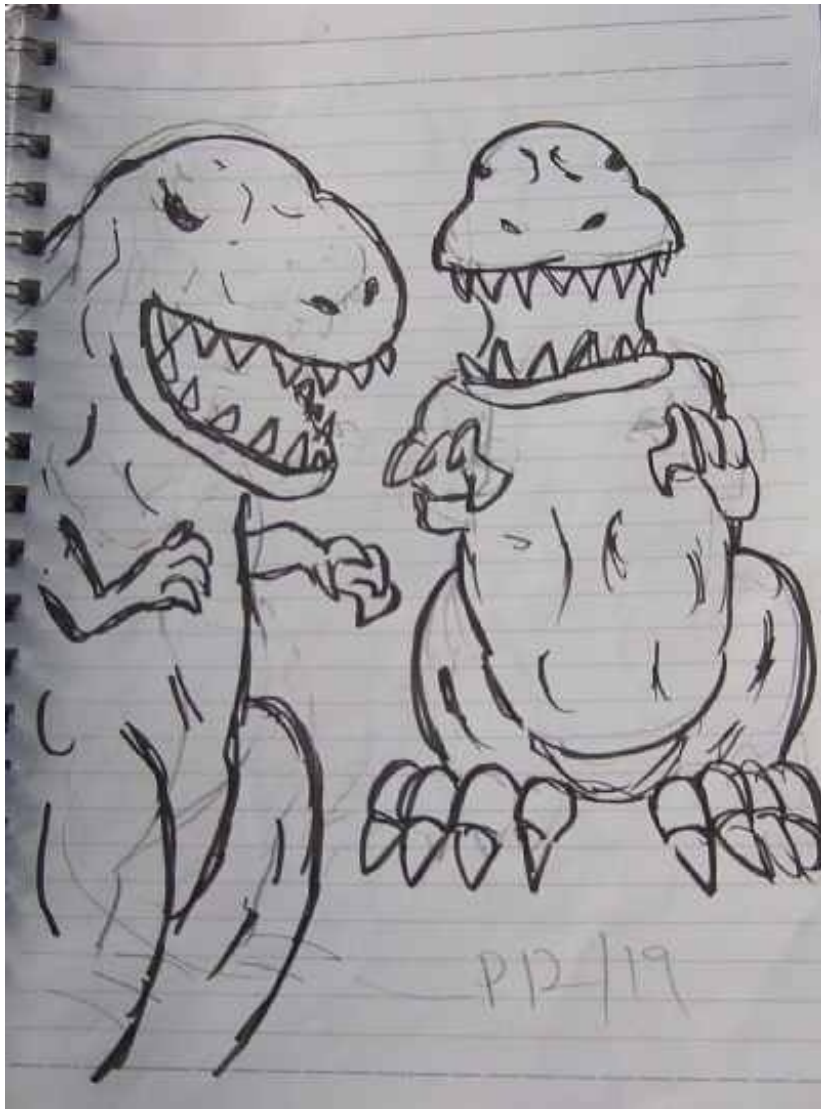
だから俺は、
いつも長峰くんと一緒にいたかった。

でも帰り道、真っ暗でねえ、
ほんと真っ暗の道で、こわかったなあ。



長峰くんだけは、
おれにやさしくしてくれたんだよ。

ありがとう、長峰くん。



おれは勉強はできなかったんだけど、
工作の時間、粘土で恐竜をつくって。

はじめて先生にほめられたんだ。

でも本当に毎日のイジメがひどくて。

だから柔道を習いはじめたんだよね。

すぐ近くにあったんだよね。



誰からもほめられたことなかったのに、

柔道の先生だけは、

おれをほめてくれたんだ。



道場の裏に、

いつも先生の白いふんどしが、

風になびいてて。

ふんどし、カッコいいな、
男らしいな。

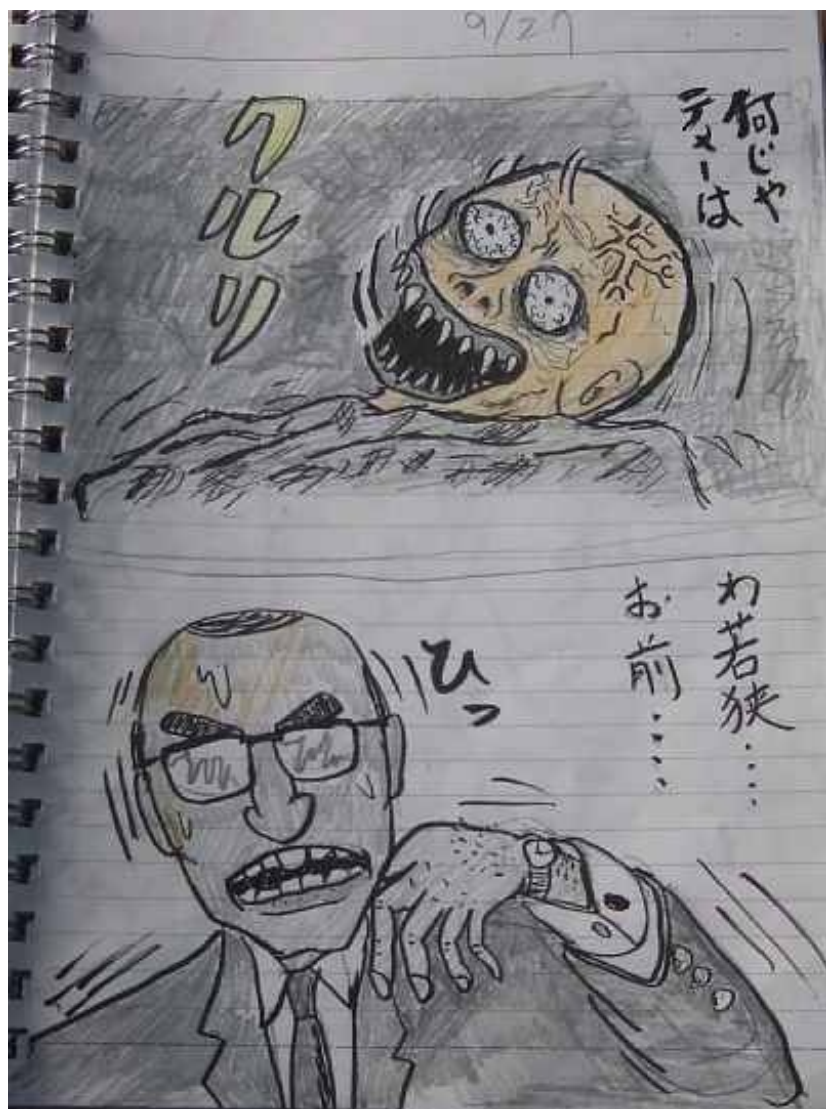


そして、ついに、
おれは、おれをイジメ続ける
クラスの連中に復讐を誓ったんだ。



それから、
もう毎日、ケンカ、ケンカ、ケンカ！

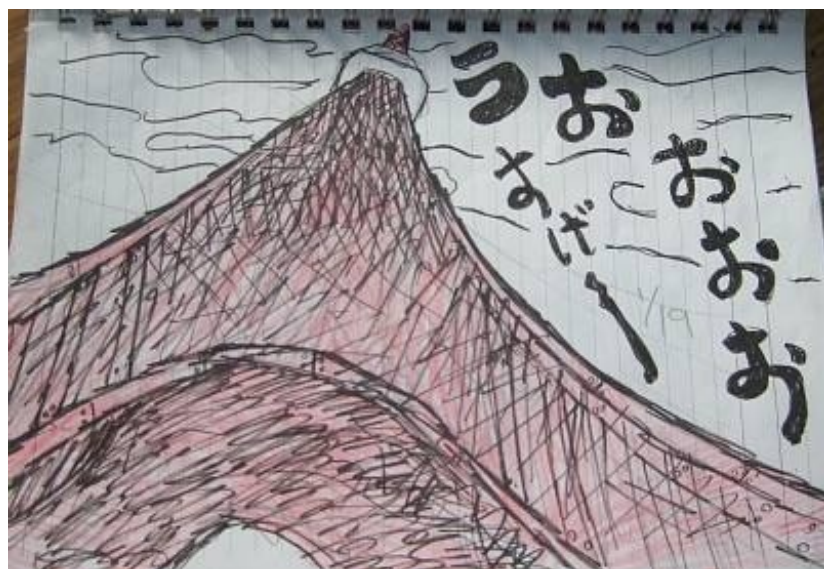




こうしてイジメは、なくなった。



近所のおばさんに
東京へ連れてってもらったり。



完成したばかりの東京タワー。

昭和の時代、
貧しさから脱出しようと、
日本はエネルギーにあふれてた。



近所のおじさんも、
がんばって働いて、
ついに豪華な三階建ての店を建てたんだ。

でも、おれのうちは、というと....。

ついに両親は離婚。

かあちゃんとねえちゃんは、
この家を追い出されて、
おれは親父と二人で暮らすことになっちまったんだ。

それから、ひどい暮らしが続いた。

大好きな柔道も、やめさせられた…。

あまりのひどい生活に、
見かねて親父の弟さんが、おれを引き取ってくれることになった。

おれは、おじさん夫婦たちのもとで生活して、
学校も転校して、まったく新しい人生がはじまっていったんだ。
クラスのみんなも、やさしくて、
だから、この一時期はケンカなんか、全然やらなかった。

でも、こんなやつが、いたんだよね。



なんか雰囲気が異様でね、
「あいつには、かかわんないほうがいいよ」って
みんなが教えてくれた。

でも、ある日、
こいつに待ち伏せされて...



なんだか
家に連れてって来て。

親切にしてくれたんだけど、
それ以後、
おれは彼と付き合ったりはしなかったんだ。

そうしたら卒業式の日。



みんな感動しちゃった。

あいつも、いろいろ、あったんだろうなあ。
なんか、わるいことしちゃったなあ。

ある日、思い立って、
あぶかわの家に行ってみただけど、
そこには、もう、あの家はなくなってたんだ。

どこいっちゃったんだろうなあ。

どこで、どうしているのかなあ....。

青年期

ある些細な出来事がきっかけで、
俺は不良になっちまった。

親切にしてくれたおじさん夫婦の家を飛び出して、
暴走族やったり。



彼女も出来たり。



バニーガールのバイトやってた女。

でも、そしたら突然、おれフラレちまって。



おれのことは好きだけど、
愛せない、っていうんだよ。

もう大ショック。



クソおんな！
ちきしょーーーー！！



そんなある日、
かあちゃん、具合わるくなっちゃって。



死んじゃった。

働いて、働いて、
そうして、死んじゃった。

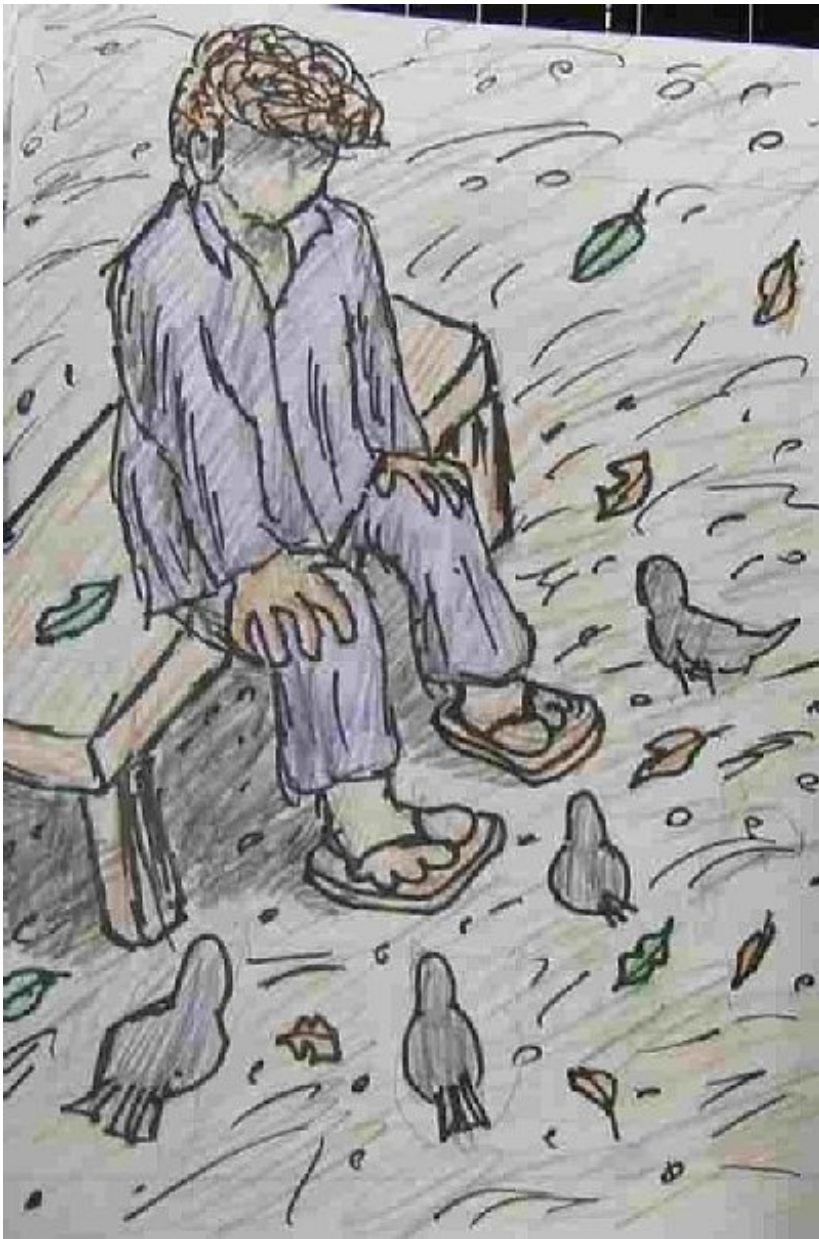


親父は懲役。

ねえちゃんは親戚の家に預けられちゃったんだけど、
そこを家出して行方不明。

俺は1人、この団地に残って。

仕事もしないで、ただ、ぼーっ、と。



しかし....。

カネがない。

まったく、ない。

腹減って、腹減って、死にそうだった。

なので....。



出前を取った。



集金に来ても居留守。

カネないだもん、しょうがない…。

そしたら並木がきた。

俺のブザマな姿を見て、啞然としながらも言った。

「若狭くん、ホストになりなよ」



スーツをもらった。

新宿でホスト稼業が始まった。

客もついて、もうガンガン稼ぐ！

しかし、すざまじいババアにとっ捕まって、
ラブホへ連れ込まれてしまったこともあった...



いくらカネのためとは言え...
おれには、やっぱり、できなかった！



ホストの先輩に
ビール瓶で頭を殴られたこともあった。

瓶は粉々。

俺はウンコもしょんべんも漏らして、
ぶっ倒れちゃった。

ほんと死ぬところだったんだ。



こんなホストの仕事も
そんなに続けてはいられない。

なにか、やらないと。

それは男として…。

そんなある日、テレビでボクシングの試合を観た。

浜田剛史のタイトルマッチ。

リングに向う浜田の姿に、魅せられた。



命を懸けたリングを見上げた浜田。
これこそ、男だ。



この試合、感動した。

それで俺は、ホストを辞めて空手の世界へと
入って行ったんだ。





極真空手城南支部へ入門。

緑先輩にお世話になって。

でも緑先輩が故郷に帰ってしまって...

おれは心の支えを失った。

そして極真に行かなくなって、
他の流派の試合に出るようになっていた。



男は強くなきゃいけない。
強くなって、見返したい。



ものすごい猛練習を続けて、
試合でも優勝できるようになったんだ。





相手の上段蹴りに対して、
左の上段をあわせてゆくという。

おれとしては珍しいショット。

で、結婚もしたんだよ。



子どもも産まれて。
お世話になってる緑先輩と。



で...

結婚して子どももいる。

だから、どうしてもカネが必要。

そうして、おれはアマチュアからプロへ転向したんだ。



ここで代表選手になればK-1にも出られる。

そうすればカネになるから。





ムエタイのチャンピオンとの試合も組まれるようになった。
緑先輩も応援にきてくれた。







前蹴り、そしてパンチで攻めていった。



だがパンチを食らってダウン。



頭のなか
真っ白になってた。



なんとか立ち上がった…。



必死に闘った。

でも、初のKO負け。だめだった。

プロの夢は、終わった。





勝者と敗者。

人生の明と暗。

ほんとに必死にがんばったんだ。
がんばったんだけど、だめだった。



おれをコーチしてくれた、
すごくお世話になった
村上さんとも戦った。

判定負け。

けれど試合が終わったあと、
「勝ったのは、おまへのほうだよ」と言ってくれた。

それでも闘い続ける

それでも、
おれは空手はやめなかった。

おれなんか、できそこない。

でも、それでも空手はやり続けた。

空手は、おれの人生そのものなんだよ。



いろいろ働きながら、女房もパートとかで働きながら、
二人で子どもを育てながら、
俺は空手は続けてきた。



おやじは酒の飲みすぎで死んだ。

ねえちゃんは行方不明のまま。

天涯孤独。

だけど、おれは闘い続ける。



気づいたら、
もう、いい歳になっちまったってのに、
それでも空手を続けてきた。

40代で全日本大会にも出場した。

日本の代表選手を相手に延長、延長、延長という、
熾烈な戦いを繰り広げてきた。

ほんとうに死力を尽くした。

けれど、勝てなかった。

それでも、おれは、あきらめなかった。





試合に出たり、
道場で子どもたちを指導したり。



空手をはじめて、キックに転向したり、
また空手に戻ったり。

まわり道の人生だった。

でも後悔してない。
これが、おれなんだよ。
これが、おれの人生だったんだよね。

冬の合宿所にて、想う。

これからも、おれは空手家として生きよう、と。



できそこない。

でも、おれは、おれ自身にだけは、負けたくないから。

これからも人生に、闘い続けてみせる。

負けねえぜ。

絶対にな。

いま、ひどい不況で、

元気になれない人たちが、すごく多いと思う。

だから、おれは、みんなに勇気、元気を届けたい。

おれの、この人生記を読んで、少しでも明るく、元気になれば、

それは、すごく、うれしいことです。

そして、また、これまで自分を支えてくれた方々、
そして女房、子どもへ、
ありがとう。